

信州口腔外科インプラントセンター（上高井郡小布施町）所長の北村豊氏は、昨年2月から地元の地域紙「北信ローカル」（毎週金曜日発行）の1面題字下に、写真とエッセイで綴るコーナー「自然を楽しむ」を連載している。



題字下にコーナーが掲載された地域紙を手にする北村豊氏

信州口腔外科インプラントC

北村豊所長

写真とエッセイで綴る「自然を楽しむ」地域紙に連載



和名を「繡桃」と言われても返答に困りますね。アーモンドのことなのです。繡桃は表面に凹凸もあり扁平で、この種に形が似ていることに由来します。診療所の庭で毎年咲き、咲き始めは白っぽいのですが、開花が進むとピンク色が強くなります。

これまでに掲載されたコーナーの一例

奈良市生まれの北村氏は、豊かな自然環境に魅せられて長野県に移り住み、2004年に小布施町に診療所を開設した。神奈川県大に入学する前

には、東京農業大学農学科昆虫学研究室で学んだほどの昆虫好きで、中学3年生のときに、チョウやガの学会「日本鱗翅学会」の学会誌にシヨート

レポートが掲載されたこともある。

連載中のコーナーは4月22日号で63回になった。昆虫や植物、自然現象など、その季節ならではの写真に、2000字程度の解説文が添えられている。「自然界は驚きの連続。身近にありながら、これまで気が付かなかったことを、読者の皆さんにも知ってほしい」と北村氏。トンボの翅（はね）や植物の表面を接写すると、これまで見たことのない異次元の世界が現れるのも楽しみだと言う。休日や昼休みを利用してながら写真撮影に出掛けるが、栗林の庭や、地下水を流したせせらぎ、池に囲まれた診療所も、撮影するには格好の場所となっている。

連載は2年目に入った。「題材は身近なところにくらでもある」と言いながらも、これまで野外では撮影したことのない、飛ぶ宝石とも呼ばれる「ミドリシジミ」類などのチョウをぜひ撮影したい、と張り切っている。（友田博文）